



東京2020大会終了後の ボランティアに活躍の場を

東京オリンピック・パラリンピックのレガシー

神奈川大学 大竹ゼミ
チームP

目次

緒言・目的



現状調査

①事例②文献③アンケート④ヒアリング



提言

①S-po②S-poカード③Nexpo



まとめ

①効果②今後について



スポーツ基本計画



支える

みる

する



緒言・目的



安全な生活のための活動



スポーツボランティア

お互い支えあう仕組みは
今の日本には**必要**である。



自然や環境を守る活動



防災・被災者支援活動

ロンドンオリンピック後のレガシー



オリンピックを契機に市民の42%が人生で初めてボランティア活動に参加



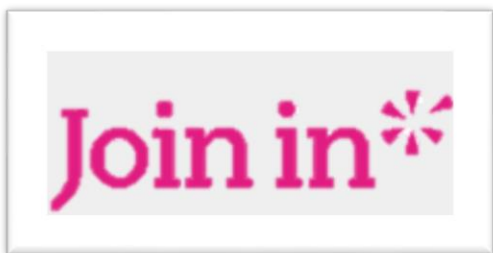
<https://tokyo2020.jp/jp/get-involved/volunteer/>

オリンピック開催後から1年の間にボランティアに携わった人は市民の68%

ロンドンオリンピック後の取り組み



慈善団体「Join In Trust」を設立



- ・ 組織委員会からボランティア名簿引継ぎ
- ・ 新たに10万人のボランティア人材を確保
- ・ 年間活動人数は2万人を超える

(2017年8月時点)

ボランティア運営主体



組織委員会

大会ボランティア



東京都

都市ボランティア



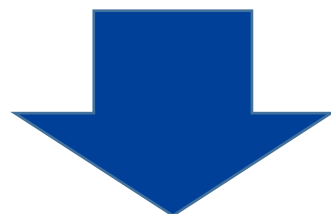
9万人

A large blue downward-pointing arrow is centered between the two boxes above and the final number below, indicating a flow or result. The number '9万人' is displayed in white text inside a green rounded rectangular box.

研究背景



ロンドン大会のボランティアは
レガシーに



東京大会に向けた
ボランティア育成はされるが
その後の活動は？

緒言・目的

- オリンピックで活躍したボランティアが自分の地域に帰る
- 新たな人材の育成



9万人の
ボランティア

研究方法

- 事例調査（国内）
- 文献調査（ボランティアに関する先行研究）
- アンケート調査
 - 東京都23区のオリ・パラ関連担当
- ヒアリング調査
 - 東京オリ・パラ競技大会組織委員会
 - 東京都オリ・パラ準備局

事例調査



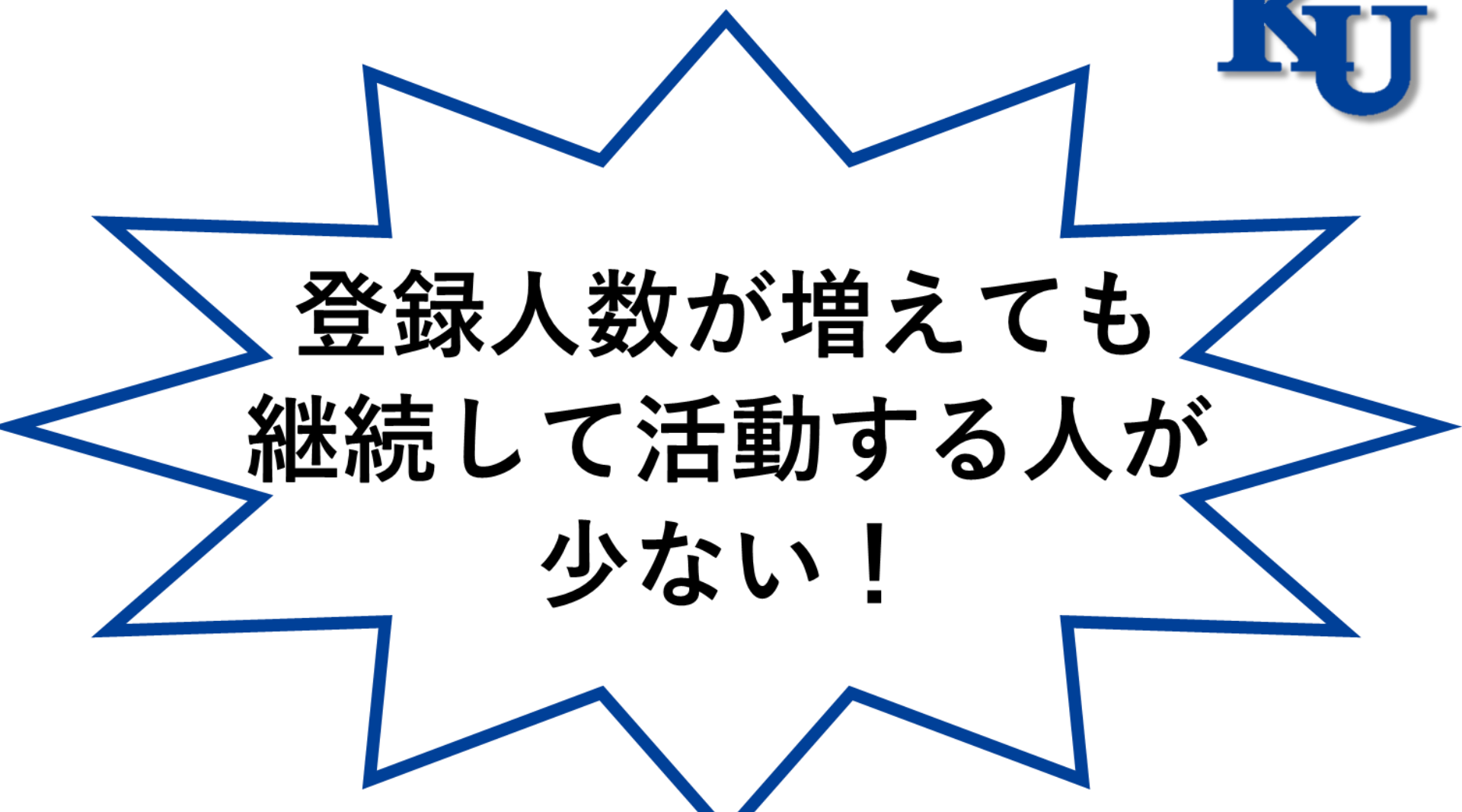
国内スポーツボランティアバンク登録者・活動者推移

	国体開催時	国体終了後	2003	2005	2009	2010	2011	2013	2015
神奈川スポーツ ボランティア バンク (1998年)	5800	4500	391	257	-	-	-	127	111
埼玉スポーツ ボランティア バンク (2004年)	800	465	-	-	-	-	5346	5572	-
							264	186	

登録人数減少

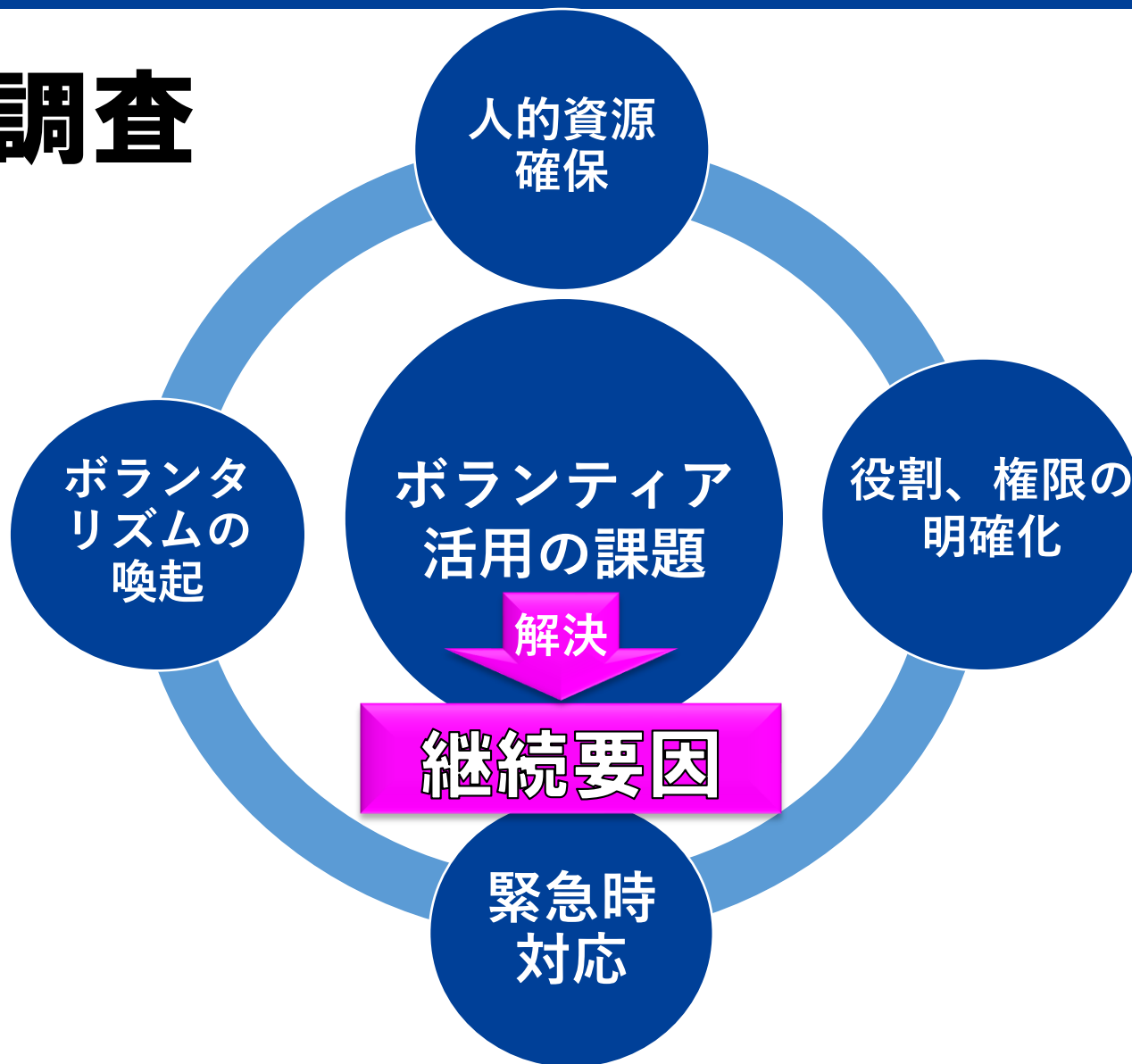
活動率3.4%

活動者数

A large, blue-outlined starburst graphic is centered on the page. It has multiple points and is filled with white space. Inside the starburst, the text is written in a bold, black, sans-serif font.

登録人数が増えても
継続して活動する人が
少ない！

文献調査



アンケート調査

- 調査対象 東京23区（オリ・パラ関連担当）
–回収数：13部（回収率：56.5%）
- 調査目的 大会終了後、ボランティアの活動環境が整備されているか明らかにする
- 調査内容 各区のオリ・パラ終了後のボランティア活用政策など

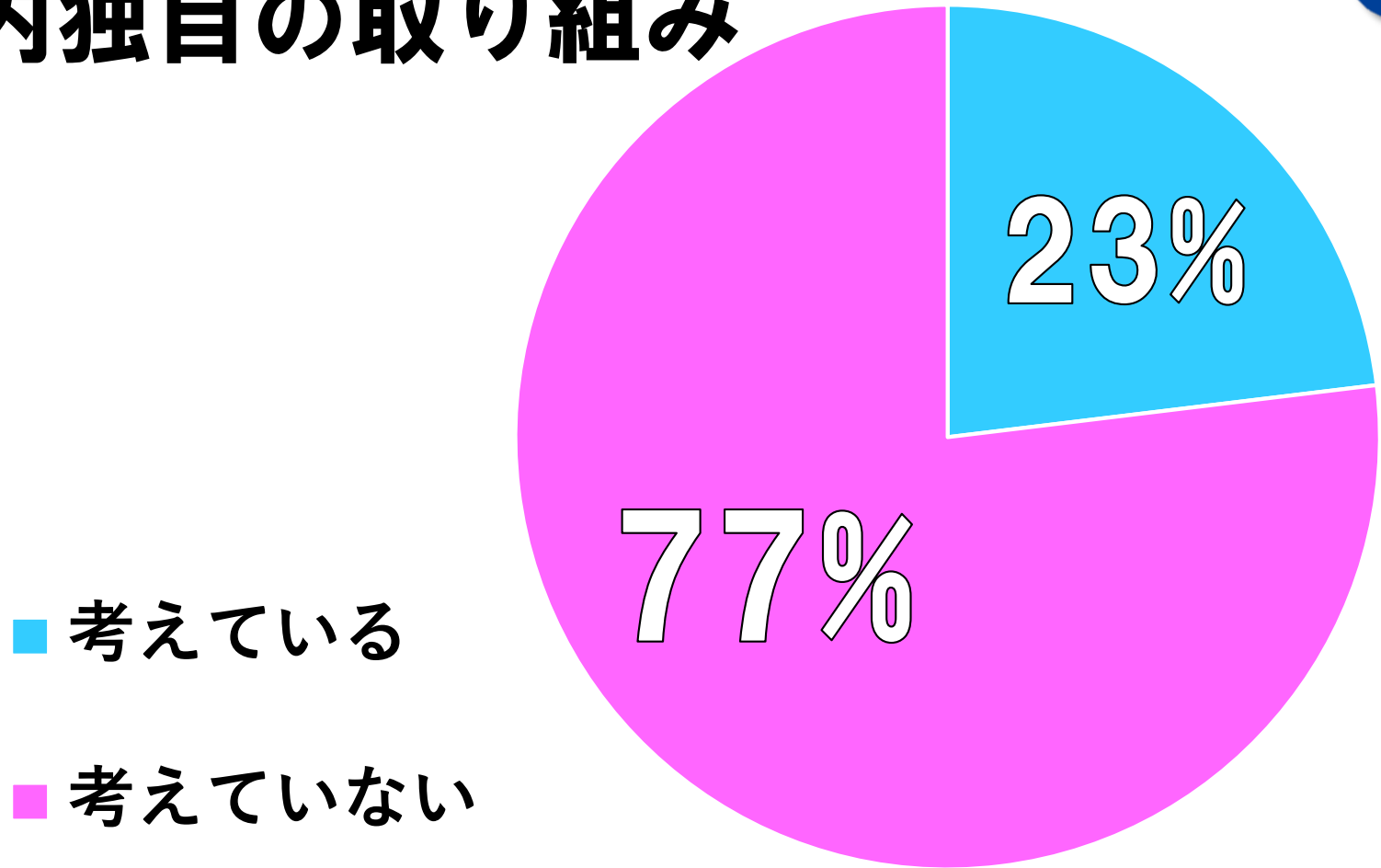


東京23区 アンケート結果

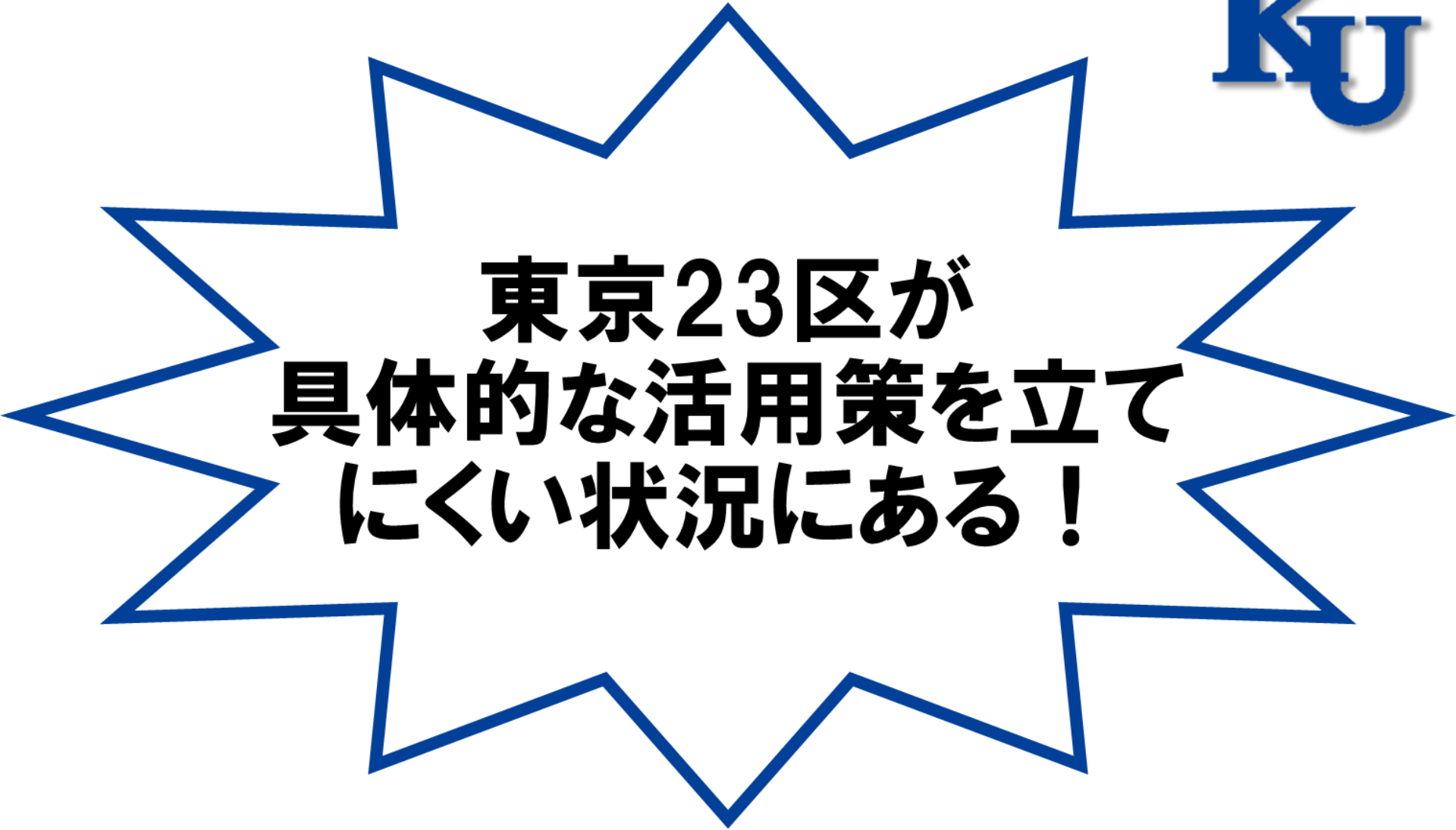
区	大会 担当 人数	ボラン ティア 担当	人事の 決め方	大会後終了後 区内独自の 取り組み
A	0	×	回答なし	
B	3	×	特になし	
C	6	○	通常人事異動	
D	4	○	回答なし	スポーツ応援団
E	6	○	通常人事異動	世界各国 歴史文化を学ぶ講座
F	6	×	選抜あり	F区サポーター制度

G	4	×	通常人事異動
H	5	×	通常人事異動
I	3	×	公表なし
J	3	×	特になし
K	2	○	不明
L	8	×	回答なし
M	11	×	通常人事異動

大会終了後 区内独自の取り組み



- 考えている
- 考えていない

A large, blue, multi-pointed starburst graphic is centered on the page. It has a thick blue outline and a white fill. The text is centered within this starburst.

**東京23区が
具体的な活用策を立て
にくい状況にある！**

ヒアリング調査

- 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会
 - 総務局 ボランティア推進部 ボランティア推進課
ボランティア推進チーム 2名

- 東京都
 - オリンピック・パラリンピック準備局
総合調整部 計画運営課 2名

- 調査目的
 - 東京都と各区の方向性の違い
現時点での課題を知るため



ヒアリング時の様子(9月21日)

組織委員会の考えるレガシー

• ボランティア活動気運の維持・継続

- モニュメントの設置
- ボランティア休暇制度のある企業への支援金

• 大会後に向けた取り組み案

- 活動環境の整備
- 活動機会の提供
- マッチング機能の強化
- 運営ノウハウの共有



検討中

都と組織委員会の考える課題

- ボランティアのマネジメント
- 活動気運維持・継続をどのように実現するか



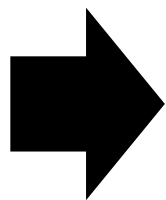
**募集人数の多さなどから
具体的な政策が
示しづらい**

問題の所在(文献・事例調査より)



円滑な活動の妨げ

問題の所在(アンケート・ヒアリング調査より)



区が具体的な受け入れ態勢を取れない

政策提言

提言①

体育協会と自治体の連携による
ボランティア組織の構築

提言②

カードとアプリによる
統括とマッチング機能の形成

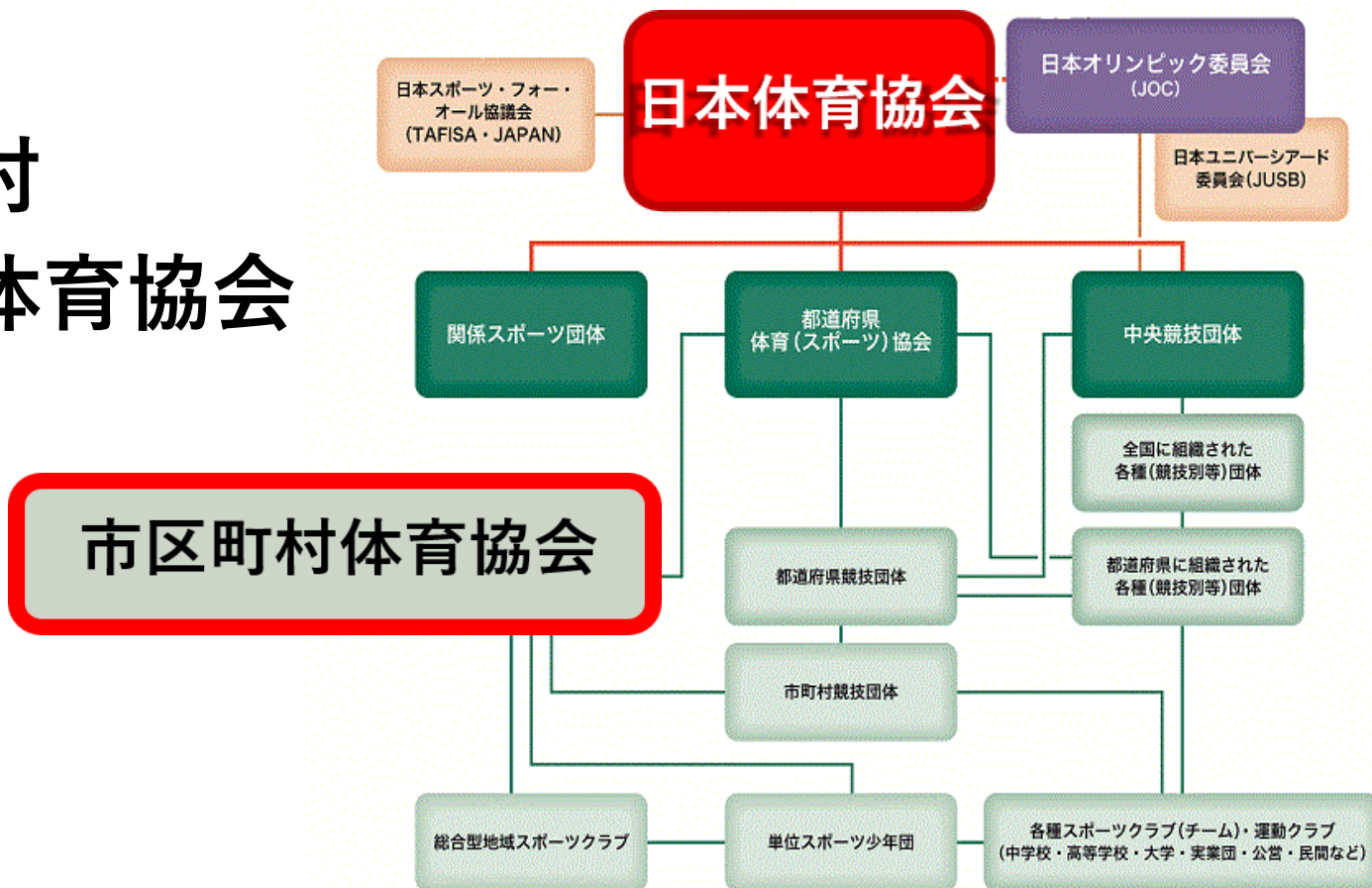
提言③

次世代を担うリーダーの育成
ボランティア文化の発信

提言先



- 各市区町村
- 市区町村体育協会



S-poを体育協会内に設立

各市町村体育協会

S-po

スポーツ
ボラン
ティア

各市町村(社会福祉協議会)

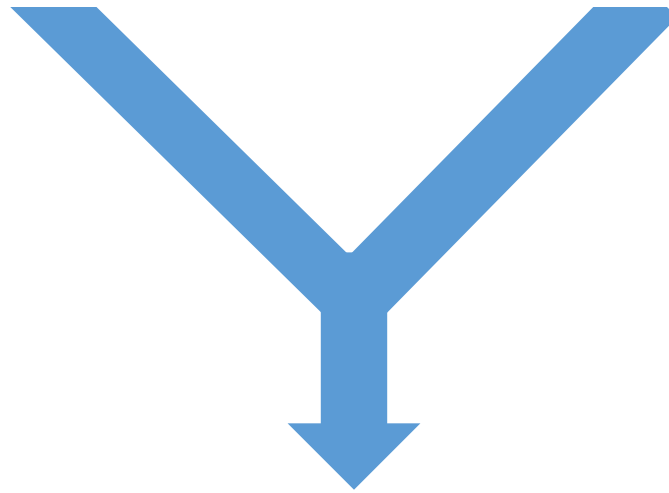
ボランティア
センター

スポーツ
ボラン
ティア



スポーツ
Sports

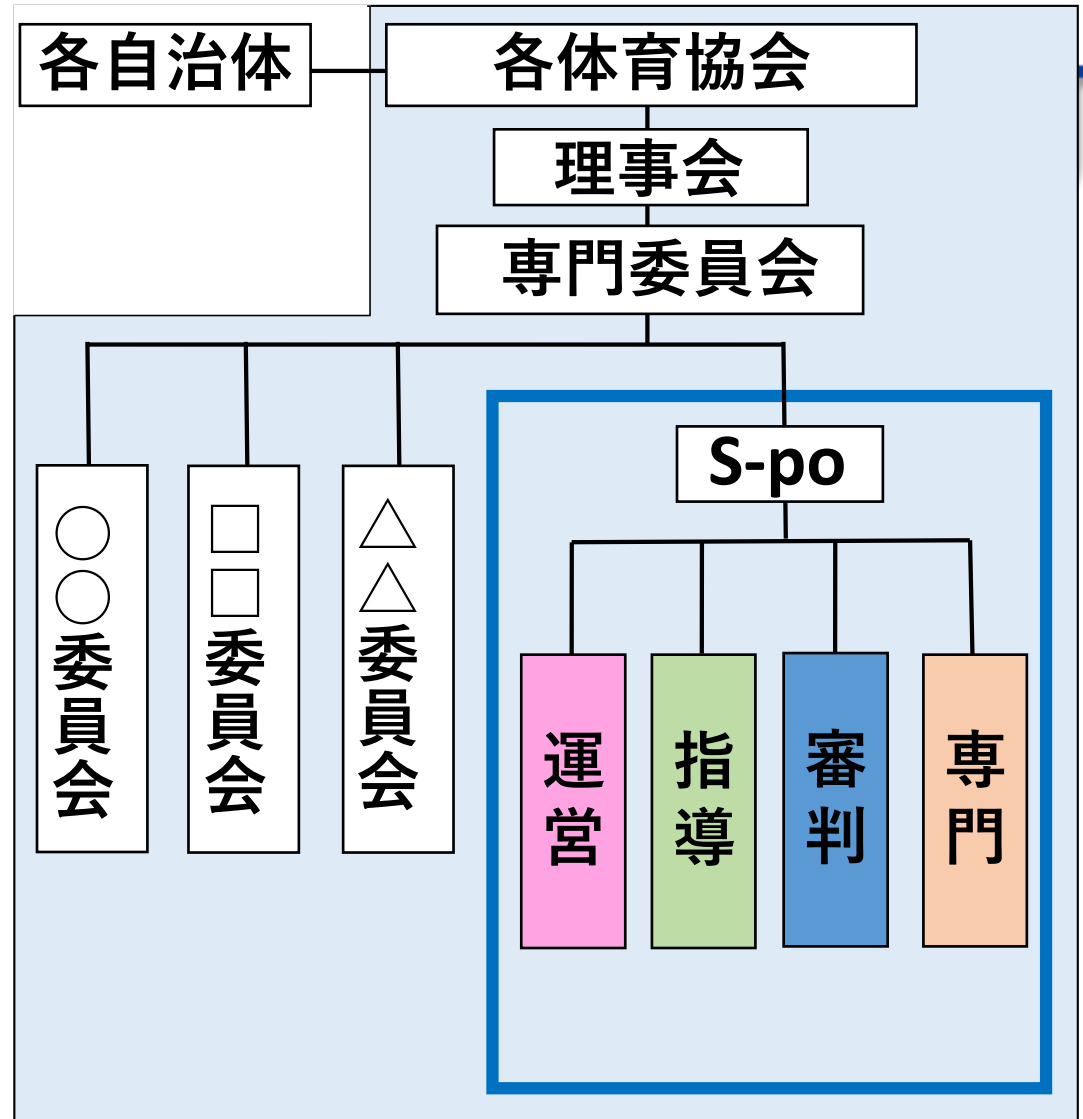
支える
Support



「S-po」

S-poの組織図

- 自治体による運営資金提供
- ボランティア経験者の受け皿となる新組織

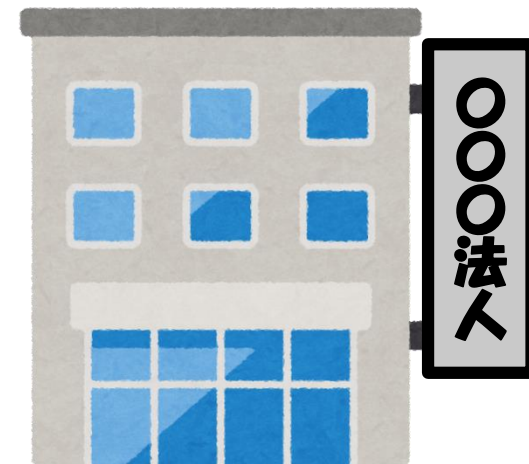


ボランティアを
機能的で円滑に活用

将来的に法人化する

社会的信頼を得られる

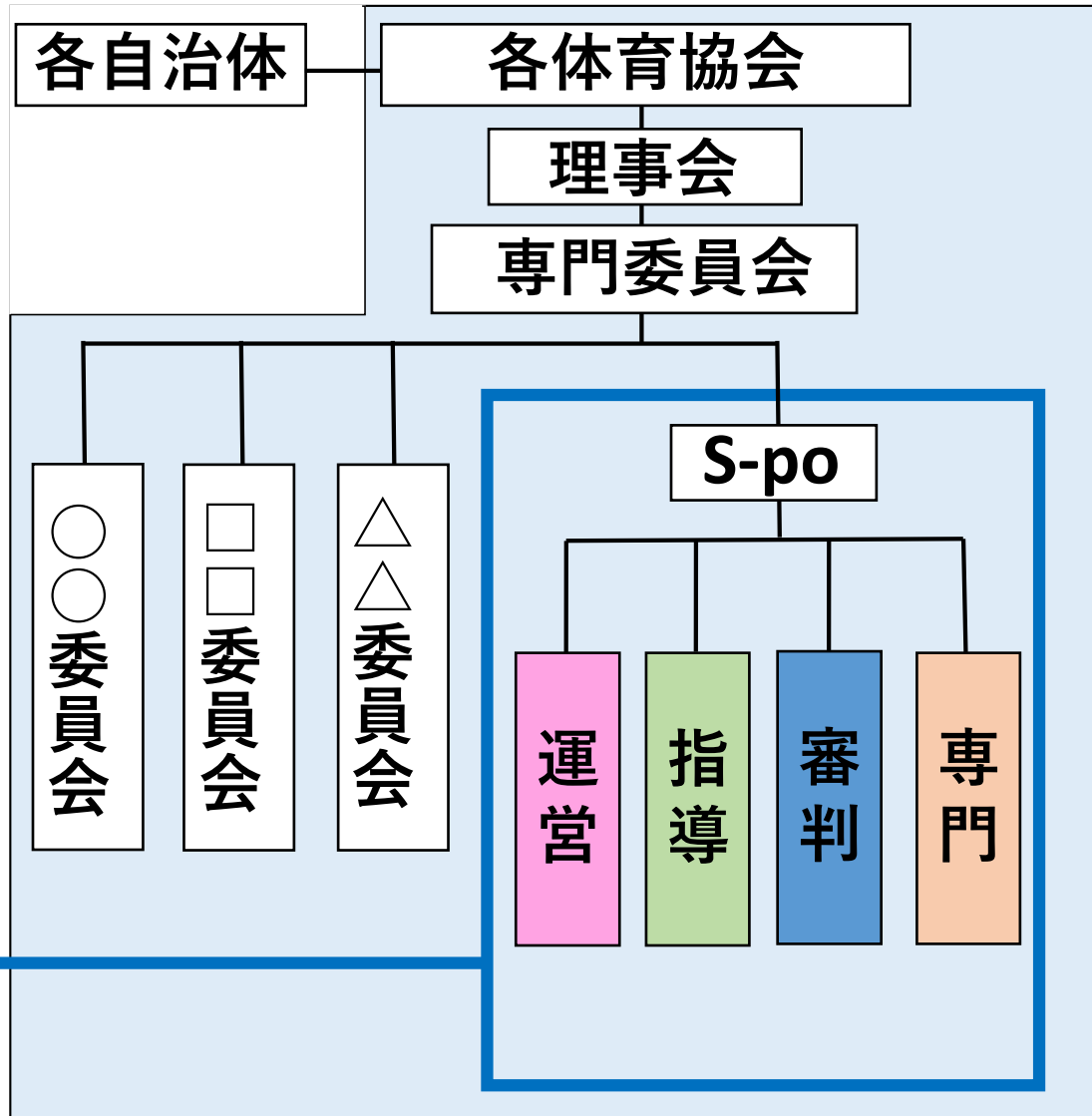
KU



民間企業との連携



企業



民間企業との連携

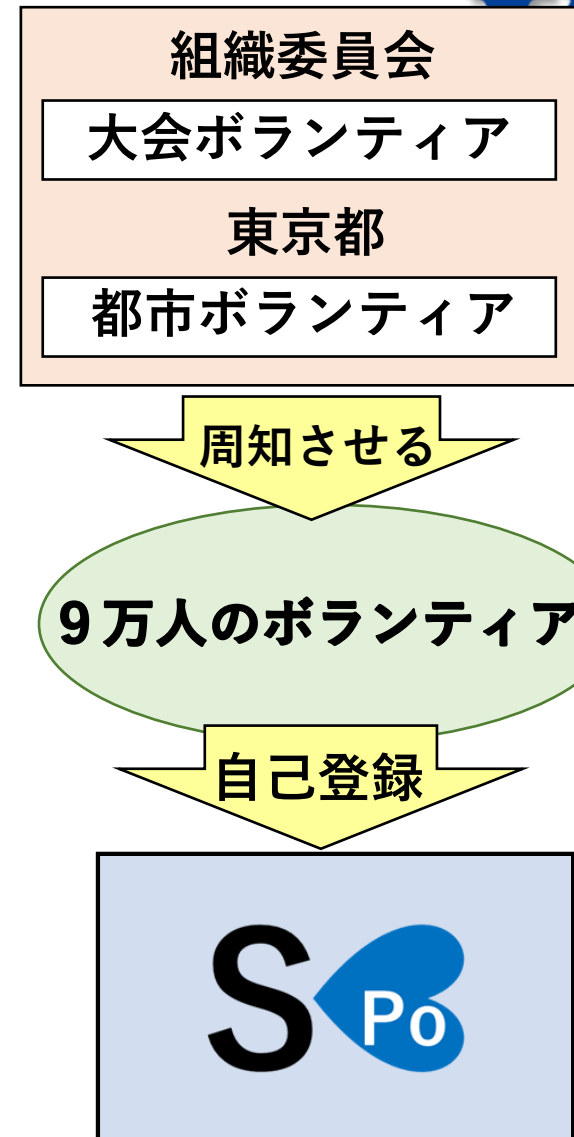


- 資金の調達
- ボランティアの場の提供

- 社会貢献として企業のイメージUP
- 優秀な人材を活用

登録過程

- ① ボランティア経験者へ『S-po』が周知される
- ② HP・アプリより登録



大会ボランティア

- 会場内誘導・案内
- ドーピング検査
- ドライバー
- スタッフ受付
- ユニフォーム配付
- メディア対応サポート
- 言語サービス
- 選手団サポート
- 物流サポート
- 物品貸し出しサポート
- 持続可能性活動サポート
- ID発行サポート
- 競技運営サポート
- 医療サポート

都市ボランティア

観光・交通案内及び会場最寄り駅での観客案内

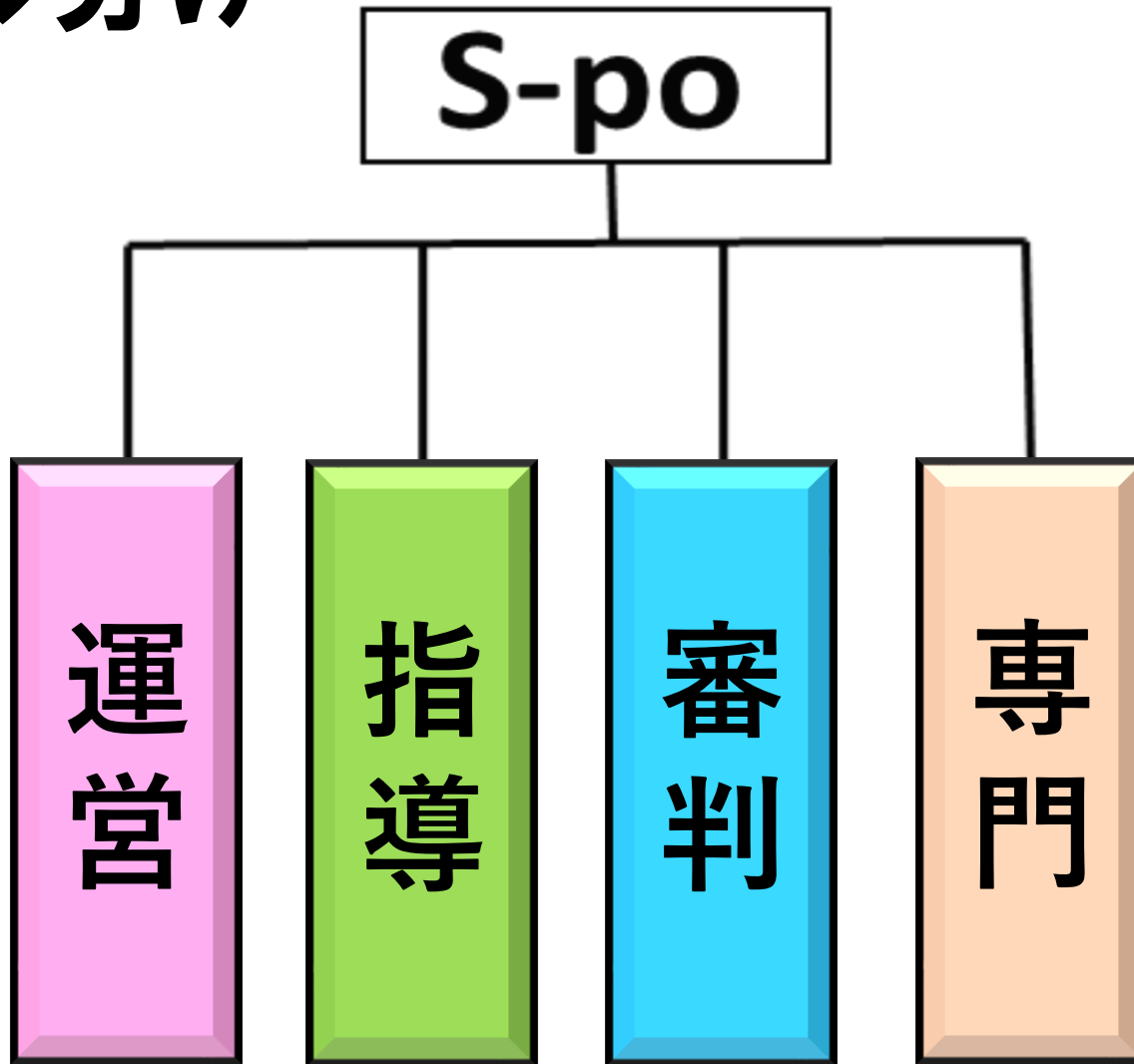
提言 ① 体育協会と自治体の連携によるボランティア組織の構築

今後希望するスポーツボランティアの内容（全体・性別：複数回答）



スポーツボランティアの内容	全体 (n=415)	男性 (n=247)	女性 (n=168)
地域のスポーツイベントの運営や世話	54.7	53.4	56.5
日常的な団体・クラブの運営や世話	26.7	27.1	26.2
日常的なスポーツの指導	23.6	33.6	8.9
日常的なスポーツ施設の管理の手伝い	17.8	17.4	18.5
全国・国際的なスポーツイベントの運営や世話	15.4	12.6	19.6
日常的なスポーツの審判	14.2	18.6	7.7
地域のスポーツイベントでの審判	10.8	14.6	5.4
全国・国際的なスポーツイベントでの審判	3.6	4.5	2.4
スポーツ情報誌やホームページ作成の手伝い	3.1	3.6	2.4

ジャンル分け



S-poカードの作成



登録内容

- 氏名、性別、年齢、住所
- メールアドレス、電話番号
- 緊急連絡先
- 希望するボランティアのジャンル
(運営・指導・審判・専門)
 - 指導・審判の場合競技の選択
 - 専門分野の内容 (資格等)
- ボランティア保険の加入情報



機能

- ① ボランティア活動回数の管理
- ② ポイントに応じた特典の贈呈
- ③ 所有資格の表示、ボランティア保険の加入証明

S-point

ボランティア1回
→1ポイント



ポイント
を貯める

ポイントに応じて
特典をプレゼント



スポンサー企業
による提供

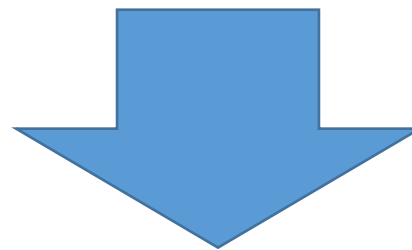
アプリの運営



『S-po!』

KU

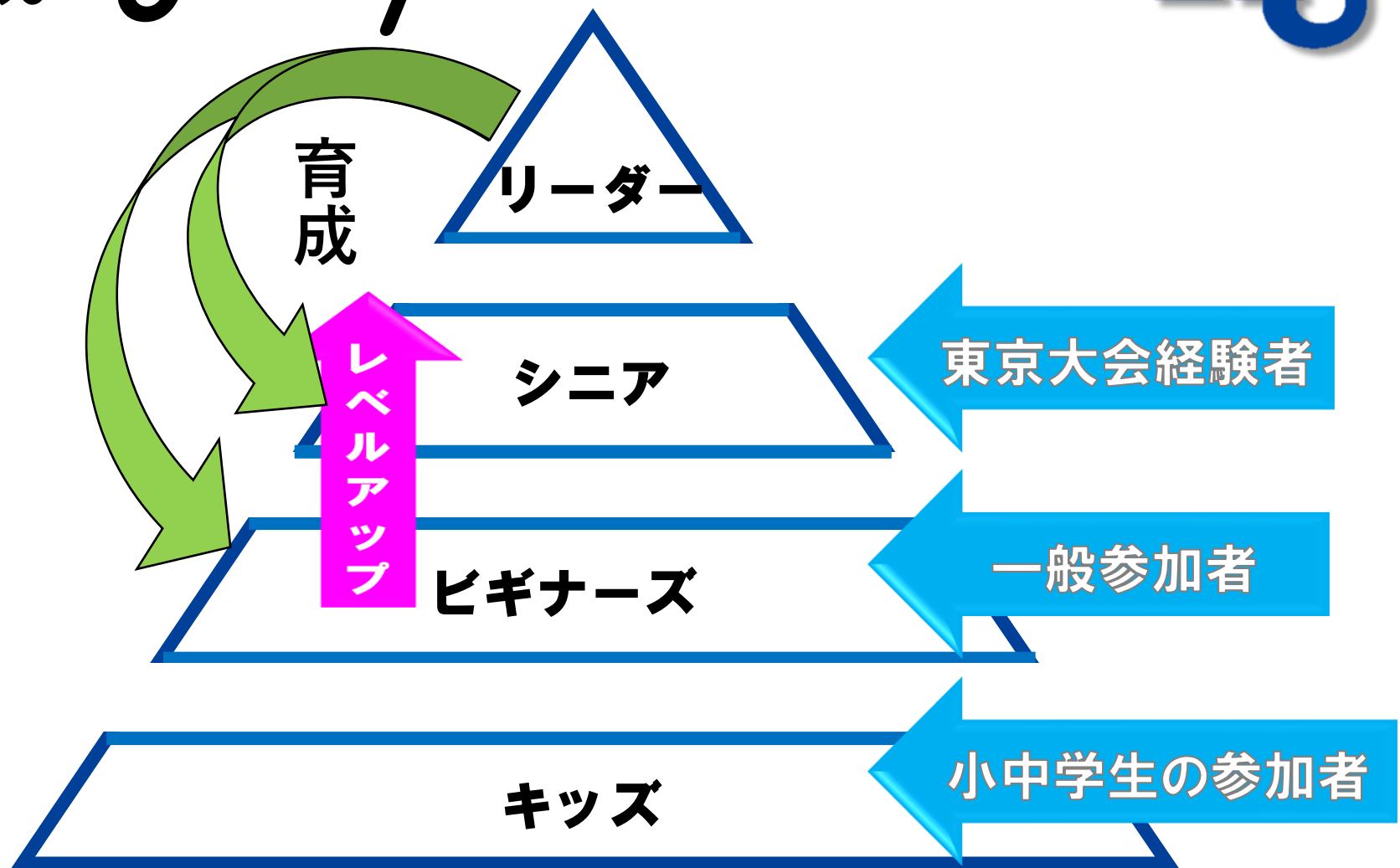
- ボランティア情報の配信
- 希望ボランティアの選択
- 直接申し込み可能



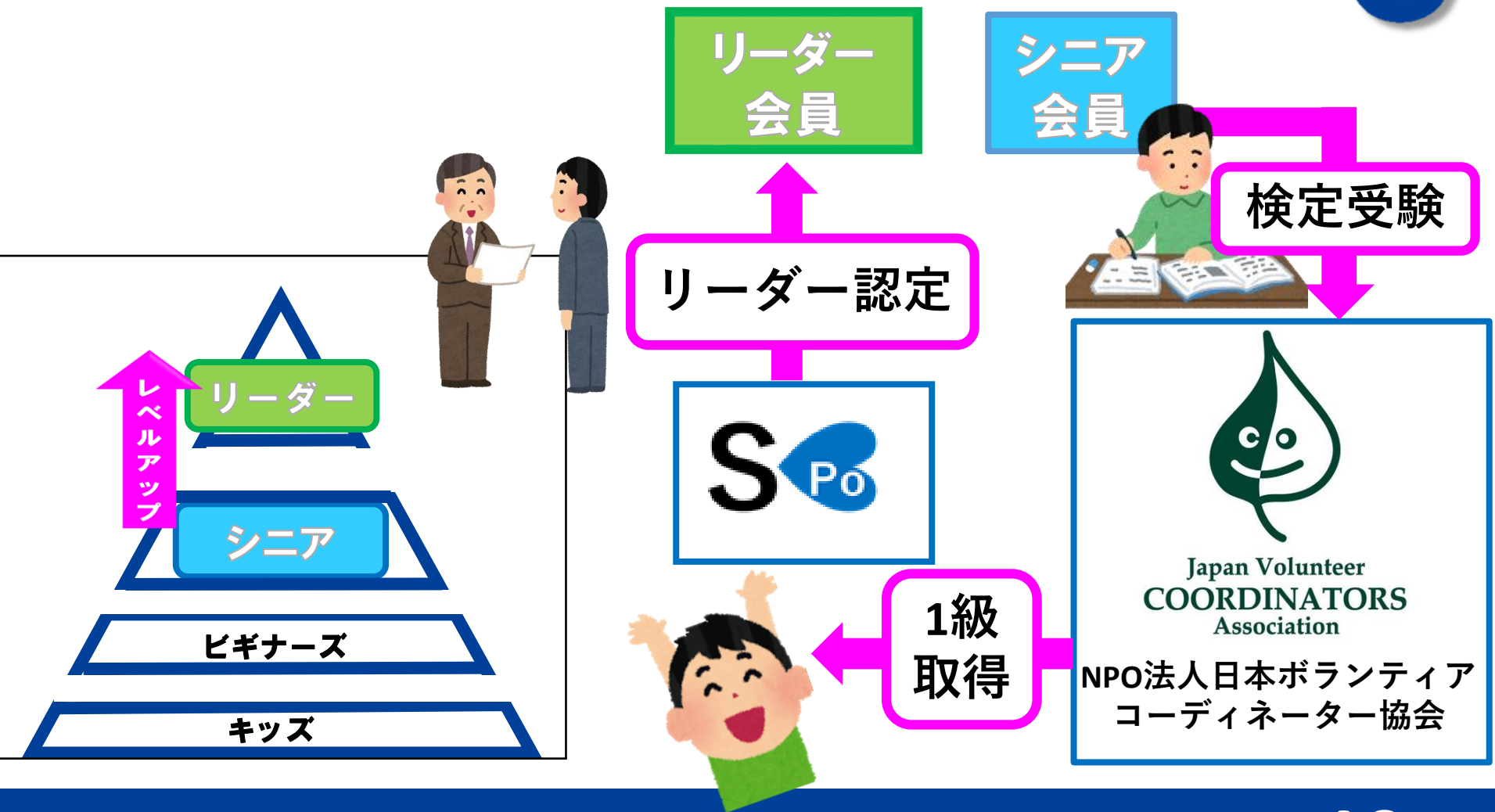
スムーズなボランティア参加・情報提供



育成 *Nexs-po*



シニアからリーダーへ





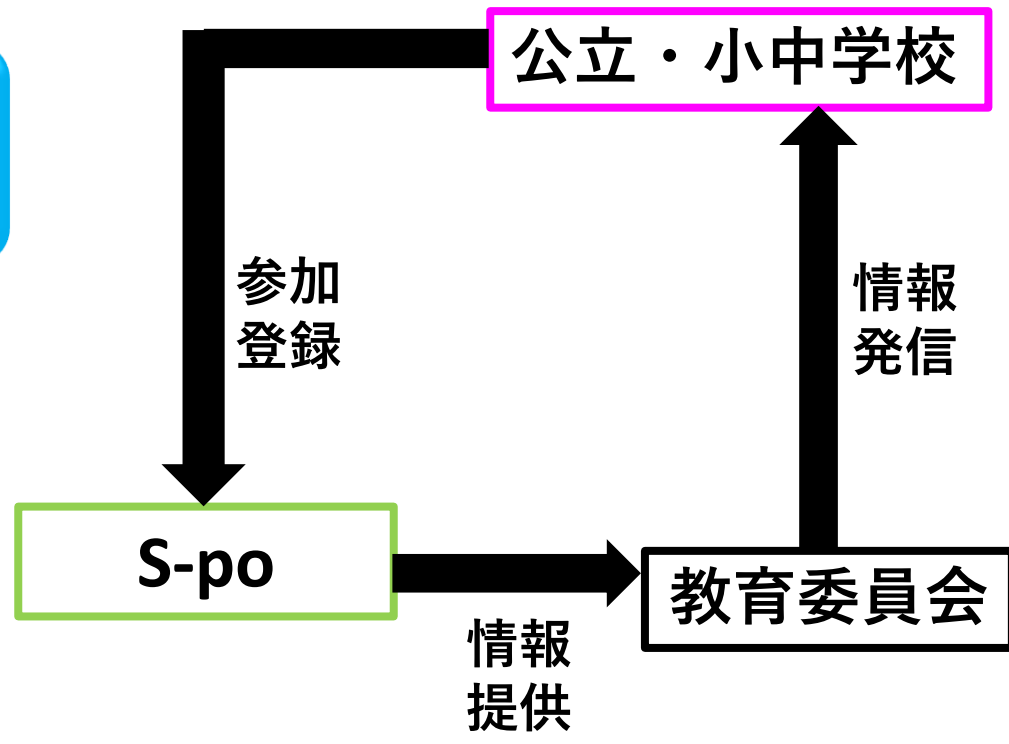
すそ野の拡大

キッズ養成による裾野の拡大

教育委員会と
公立の小中学校が連携



S-po キッズ育成



公式キャラクター

えすぽん



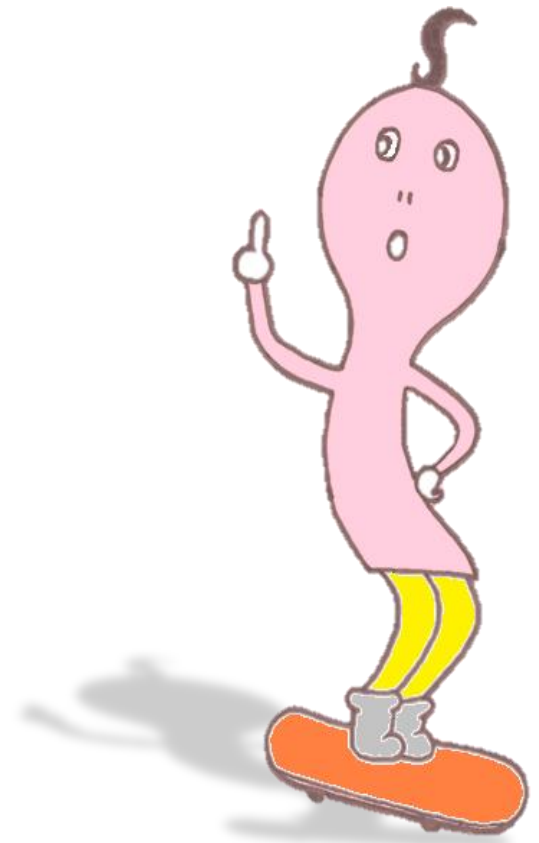
ブランド化 ボランティア = 「S-po」の定着



イメージアップ ボランティアに親しみやすい雰囲気



知名度向上 広報誌やメディアにも積極的に起用





- 組織の円滑な運営
- ボランティアに対する意欲向上



- 世代間の相互扶助
- 次世代へボランティアリズムの喚起



- ・ 地域で活躍できる人材育成
- ・ 豊かな人間関係の形成



ささえるスポーツの発展を期待

参考文献

- 東京都・公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会(2016)「東京 2020 大会に向けたボランティア戦略」
- 桜井千尋・大庭達哉(2014)「ロンドンオリンピックで活躍したボランティア」
- 米澤美保子(2010)「ボランティア活動の継続要因」
- 仲澤眞(2002)「スポーツボランティア活用の現状と課題」
- 笹川スポーツ財団(2016)「スポーツライフに関する調査」
- 社会福祉法人全国社会福祉協議会「ふくしの保険」
https://www.fukushihoken.co.jp/fukushi/front/council/volunteer_activities.html